

プログラム

11月27日(金)

◆第1セッション エクスカーション

「明治の匠の技による作品の見学会」[定員 30名]

9:30 - 12:00

「榛原」(日本橋2丁目、和紙舗)

「長谷宝満堂」(銀座1丁目、明治工芸・古美術商)

1806年(文化3年)創業の日本橋の和紙舗で、是真、暁斎などの画家との協力、万国博覧会の参加でジャポニズムに貢献した「榛原」と、明治の七宝や蒔絵、金工、京薩摩など日本の細密工芸の紹介、普及に貢献した古美術商「長谷宝満堂」を見学いたします。

※参加証送付とともに、集合時間、集合場所を後日お知らせいたします。

◆第2セッション 若手研究セミナー

会場：帝京大学霞ヶ関キャンパス

14:30 - 15:05

高橋知大(帝京大学大学院博士前期課程)

発表1「ドイツにおける日本刀の影響—明治・大正期の収集を中心に」

15:05 - 15:40

志水圭歩(学習院大学人文科学研究科美術史学研究生)

発表2「フランス陶磁におけるジャポニズムと折衷主義：1878年パリ万博への参加工房を中心に」

司会・コメンテーター 佐々木秀憲(川崎市岡本太郎美術館学芸担当係長)

◆第3セッション 記念講演会 [定員 80名]

16:00 - 17:00

村田理如(清水三年坂美術館館長)

「明治工芸に魅せられて：コレクターから見た明治工芸」

◆ジャポニズム学会賞授賞式および懇親会

17:15 - 17:30

2015年度ジャポニズム学会賞・奨励賞授賞式

17:30 - 20:00

懇親会 会場：帝京大学霞ヶ関キャンパス・ラウンジ

11月28日(土)

シンポジウム 10:00 - 17:30

10:00 - 10:10

主催者挨拶

馬淵明子(国立西洋美術館館長・ジャポニズム学会会長)

長田憲幸(公益財団法人畠山文化財団常務理事)

◆第4セッション 基調講演【国家と日本工芸】

10:10 - 11:00

樋田豊郎(前秋田公立美術大学長)

基調講演1「ジャポニズムと KOGEI：官吏と商工業者の為の美術」

11:00 - 11:50

ニコル・ルーマニエール

(大英博物館 IFAC ハンダ基金日本美術キュレーター)

基調講演2「イギリス・ヴィクトリア朝の日本工芸蒐集にみる国家方針：大英博物館コレクションから A.W. フランク、アーネスト・サトウを中心に」

◆第5セッション【ジャポニズムと輸出工芸】

13:00 - 13:35

宮崎克己(昭和音楽大学教授・ジャポニズム学会理事長)

発表1「ジャポニズムにおける双方向性：工芸の貿易と交流」

13:35 - 14:10

南明日香(相模女子大学教授)

発表2「西欧における罫コレクション：ジャポニズム期から第一次世界大戦後まで」

14:10 - 14:45

黒川廣子(東京藝術大学大学美術館准教授)

発表3「輸出向けの工芸品のコンセプトと在外作品：金工品を中心に」

◆第6セッション【輸出工芸の多様性】

15:00 - 15:35

木田拓也(東京国立近代美術館主任研究員)

発表4「万博にみられる日本陶磁の正統」

15:35 - 16:10

沼田英子(横浜美術館首席学芸員)

発表5「開港地の輸出工芸：芝山細工」

16:10 - 16:45

岡部昌幸(帝京大学教授)

発表6「トランスペアレンシーのジャポニズム：蒔絵アルバムからガラス・スライドへ」

◆第7セッション 17:00 - 17:30

ディスカッション

司会 隠岐由紀子(美術史家)

【参加申込み方法】

会場の都合で各催しには以下のような定員があります。

(A) 27日午前・エクスカーション [定員 30名]、(B) 27日午後・記念講演会 [定員 80名]、(C) シンポジウム [28日、定員 80名] 参加希望者は下記の要領で事前申込みをお願いします。

ジャポニズム学会あてに FAX (03-3341-1830) または メール (japonisme@world-meeting.co.jp) で、

①参加プログラム名 ((A) 27日午前・エクスカーション / (B) 27日午後・記念講演会 / (C) 28日シンポジウム)、②お名前、③会員 / 一般、④メールアドレスまたは FAX 番号、そして特に ⑤エクスカーション参加希望者は緊急連絡先(携帯電話番号など)をご記載のうえお申込み下さい。

先着順に参加証をお送りいたします。なお、お送りいただいた個人情報、このシンポジウムの事務連絡のみに使用します。

申込み期間：2015年10月10日～11月20日(エクスカーション先着 30名、シンポジウム先着 80名)

詳しくは、ジャポニズム学会ホームページ

(<http://japonisme-studies.jp/>) をご覧下さい。



宮川香山《色入菖蒲図花瓶》1897-1912年頃、東京国立近代美術館蔵